令和元年 5 月 31 日(金)
練馬区立開進第四小学校
校 長　河 﨑 晃 二

開四小だより

6月号

子供への声のかけ方

校 長　河 﨑 晃 二

今年度は工事の関係で、春の運動会となりました。大型連休明けからの短い期間でしたが、子供たちは６月１日(土)の運動会に向かって頑張って練習を重ねています。また、代表委員会を中心に「令和元年 新時代の幕開けだ 勝利へ走れ かがやけ 全学年！」のスローガンを決めました。子供たちは、きっと自分たちで決めたスローガンの下、最後まであきらめずに自らのもてる力を出し切ることでしょう。目的意識をもって取り組むことが子供たちの成長を促し、子供たちの心も豊かにしていきます。子供たちの活躍する姿をご来校していただき応援してください。よろしくお願いいたします。

＊

さて、私は今から３０年近く前、その当時の大先輩の先生から、子供の見方について教えてもらったことがあります。 テストで、ある子が７０点を取りました。その子に、教師や親はどのような言葉をかけるでしょうか。「これしかできなかったの。」「何でこんなに間違えているの。１００点の人も大勢いたんでしょう。」という言い方と、「ここまでしっかりと身に付いたんだね。」「ここまでよく頑張ったね。もう少し練習すれば、もっとできるようになるね。」という言い方では、子供の気持ちやその後のモチベーションにも大きな差が生じます。子供の努力を、「これしかできていない」とみるのではなく、「ここまでできた」とみることによって、子供は自信を深め、意欲を高めていきます。

子育てには、たくさんのエンカレッジ(勇気付け)の言葉が必要だということです。オーストリアの精神科医、アルフレッド・アドラー博士の「アドラー心理学」を子育てに応用した著書、「アドラー博士が教える 子供を伸ばすほめ方ダメにするほめ方」(星一郎 著 青春出版社)には、子供への対応のヒントがたくさんあります。本の中から目にとまったいくつかの言葉を紹介します。

- ◆人格ではなく行動をほめ、結果よりも努力をほめる
- ◆うまくいかないときではなく、うまくいったときにほめる
- ◆子供ががっかりしているときこそ勇気づけるチャンス
- ◆親がいいところを見ると、子供も人のいいところを見るようになる
- ◆マイナスに見えるところをプラスに言い換えてみる
- ◆自己肯定感のある子は、人に貢献できる
- ◆親子の約束は、子供と一緒に決めると「命令」にならない
- ◆「どうしてできないの」というセリフが、できない子をつくる

他にもたくさんありますが、一呼吸おいて、見方を変えて言葉を選ぶと、子供の自己肯定感はさらに高くなり、次への意欲が育まれていきます。ちょっとしたことですが意識していくことが大事であることを学びました。